

新聞記事をもとにした個別の調査活動で調べた内容以外の事実や見方・考え方に気づき、広い視野から自分の考えを持たせるための社会科指導はどうあったらよいか

実践校第1年次 下伊那郡天龍村立天龍中学校 河野 智枝

1. 実践の概要

(1) 実践した教科

- 社会科

(2) 新聞の提供状況

- 図書館に配置

- ・ 当日の新聞を決められた場所に毎朝並べた。日にちが過ぎたものは各紙毎分け、保管した。
- ・ 図書館で新聞が読めるということ、校長講話で話題としたり、朝読書の時間に教室に新聞を持ち込むなどして新聞に興味を持たせるように工夫した。

(3) 新聞を取り入れた授業をする上で特に工夫をしたこと

- 新聞記事集めを徹底的にやらせたこと。

他の情報収集手段(インターネット)は、新聞記事の内容を補足する程度に留めた。

(新聞記事で情報を収集することの長所と短所をはっきりさせたいという意図があった。)

- 現在の新聞だけではなく、過去の新聞を使用したこと。

未来の様子を予想する学習問題を設定し、その学習問題について自分の考えをまとめる際の参考になるよう、現在の新聞記事と、過去(1994年)の新聞記事を使用した。

- 新聞記事を読んだだけでは実感にくい、関係者の生の声を資料としたこと。

関係者(果樹栽培農家)を授業に外部講師としてお招きし、新聞記事の裏側にある関係者の思いを生徒に実感させようと試みた。

2. 単元展開

(1) 研究テーマに行き付くまで

授業学級の1学年クラス(13名)では、既習単元「世界のすがたをとらえよう」で、「行ってみたい国を紹介しよう」という学習問題のもと、各自興味のある国を1つずつ選びレポート作成を行った。生徒はそれぞれが選択した国について、積極的に、また楽しみながらインターネットで情報を集め、それを取捨選択しながら完成度の高いレポートを作成することができた。その後の全体追究の場においては、それぞれが作成したレポートの発表を行ったが、お互いに調査した国について興味・関心を持ったり、考えを深めたりすることができるように、

世界地図を使用し、それぞれが調査した国について皆で位置を確認させる。

友の調査した内容について興味・関心を持ったことはメモをとらせる。

疑問やもっと聞いてみたいことがあれば質問をする時間を設ける。

の、3つの手立てを取り入れた。しかし、友の調査した国について特に興味・関心を持たせることができず、内容や考えも深まらずに各自ただ発表したことに満足して単元を終える結果となってしまった。生徒からは、「友達の発表や意見が聞けて良かった」「自分が気付かなかったことを知ることができた」という感想が出てはきたが、全体追究やレポートの内容に踏み込んだ感想が出てこなかったということは、全体追究の場での手立てが不適切であったと考えられる。全体追究の場での手立てが効果的でなければ、時間をかけ自分が調査した内容のみが印象に残り、全体追究についての印象が薄れるのは必然であると感じた。指導の反省として、

- どのようにすれば、友の調査した内容(自分が調査していない内容)に興味・関心を持たせ、全体で共有化することができるだろうか。
- 調査学習では気付くことができなかった内容はどのように補えば良いのであろうか。

という課題が見えてきた。このような指導ができれば、上述の単元の学習を終える際、自分の調べた国以外にも興味・関心を持ち世界を大観させたり、世界はさまざまな国から構成されていることを実感させたりして、さらに深まっていく学習の構築が期待できたであろう。

そこで、クラス全体で設定した学習問題に対して個別で調査学習をすすめた後の全体追究のあり方に焦点を当てて考えてみたい。全体追究に工夫を加えて、自分が調査しまとめた内容以外の事実や見方・考え方に気付き、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち自分の考えを持つことができる力を育てたいと考え、研究テーマを設定した。

(2) 研究方向の決めだし

「身近な地域を調べよう 天龍村」(平成 19 年 1 月・1 学年)

学習問題「なぜ、天龍村の人口は減ってしまうのだろう」についての、調査学習発表の場面で。

- S1 : (発表の内容の中で)地図を見ると、同じ飯田市でも病院や学校の数が集中している所と、天龍村のように数が少ない所があります。数が少ないのは、地図で見ると茶色の部分で坂が多い山だと思います。つまり、天龍村の人口が減ってしまうのは、病院や学校が少ないこともあるけれど、山が多くて住みにくいからだと思います。これで発表を終わりにします。
- T : これを見て下さい。(飯田市と天龍村の航空写真を提示)
白く見える場所が平らな部分、黒く見える場所が山で平らではない部分です。
- S2 : (天龍村は)山！山！山！
- S3 : 白い部分が少ない～
- T : 森林率という言葉があります。全体の面積を 100 とすると、そのうちどれくらいが森林かという数字です。天龍村は 91%だそうです。
- S3 : じゃあ、人が住めるような平らな場所は9%しかないってこと？
だから、道がくねくね？
- T : みんなは天龍村の人口が減ってしまう理由について、店・学校・病院や働くところがないという調査をしてくれましたが、じゃあ、なんでそういうものが天龍村には少ないのだろう。その答えをS1が地図から探してくれました。
- S4 : ああ、そうか。地形は全部の結論に関係するもんね。

<この時点での生徒の感想>

天龍村は本当に山だと思った。

飯田市の写真と全然違った。人が住める場所が少ないのだと思う。だから人が減る。

今回調べたやつで、飯田市と比べただけでもすごい違いだから、東京とか名古屋とかと比べたらすごく違うだろうから、すごく田舎なんだと思った。

「なぜ、天龍村の人口は減ってしまうのだろう」という学習問題に対して、クラスでは、店が少なく不便学校や病院などの施設がないから 将来の夢を叶える場所がない(働く場所がない) の3つの予想が立てられた。そのうち、の予想を立てた生徒(S1)は、天龍村と飯田市の地図上で学校と病院を見つけその数を比較しようとした過程で、同じ飯田市の中でも学校や病院が集中している部分と天龍村のように

学校や病院がほとんどない部分があることを見つけ、なぜ天龍村には学校や病院がないのかその理由を地形と結びつけて考えることができた。この生徒の発表を受け、・・・の予想全てに「天龍村の地形」が関わっていること確認するため、航空写真を提示した。

以上のように、個別の調査学習の発表によって、**天龍村(森林率が高い地形)の短所**には気付くことができた。しかし、**天龍村(森林率が高い地形)の長所**は調査学習では気付くことができなかったため、次のような資料を全体追究で扱った。

どんぐりさんに聞きました。「天龍村のここが良い」ベスト10	
1位	人が良い・・・人が優しい、育った環境によって人はこれほど変わるものとびっくりした。人との関わりがとても良い、挨拶を自分からしてくれる。
2位	野生動物がいる・・・授業時間に初めてキジを見た。本で見たキジよりきれいだった。動物や昆虫など多くの生き物が生活している。
3位	空気・水がきれい・・・空気がおいしい。おかげでひどかった皮膚病(アトピー)が良くなりました。空気が澄んでいる。
4位	自然豊か・・・山が多くて木がたくさんある。コンビニやゲームセンターはないが、「遊ぶところ」はたくさんある。自然がいっぱい、四季が美しい。
5位	星空がきれい・・・天の川を肉眼で見たのは生まれて初めてです。夜空の観察にはとても良いところだと思います。
6位	天竜川がきれい、天竜川で泳げる・・・天竜川は上から見るとゆられるようすごい川だと思った。川で泳げる。
7位	祭りやイベントが多い、貴重な祭り・・・伝統行事を大切にし残し続けている。大河内・向方・坂部には貴重なお祭りが残っている。
8位	雪が降る・・・冬には雪が積もって雪遊びを満喫できる。雪が降る景色は最高。雪合戦します。
9位	おいしくて有名な特産物・・・特産物がたくさんある。つげもの、小梅、田井沢なす。ゆべし工場は取材を受けている。
10位	電車やバスが充実・・・平岡駅は特急も停まるし村内にいくつも駅がある。バスがあるので移動が助かる。

●クイズ形式で確認を行った。

<この時点での生徒の感想>

すごく田舎だと思ったけど、田舎でないとできないことがあるから、その点ではここに居ることができてうれしい。

今、年寄りが多くて、子供が少ないため、将来の天龍村はもっと人口が減ってしまっていると思います。(略)だけど、どんぐりさんが言うようにいい人ばかりで住みやすい村です。

どんぐりの人から見ると、自然が良いとか、良いところを見つけてくれてうれしかった。将来できれば戻って来たい気もする。県外の人を天龍村に連れて来て紹介してあげたい！

(考察)

ただ単に教師側が「天龍村は良い所だ」と補足の説明をしても印象には残りにくい。そこで、生徒と同年代であるどんぐり向方学園の生徒さん方(もともと天龍村に魅力を感じて住み始めた人ではない)の意見は生徒にとって天龍村の長所を知る上で印象深い資料になると考え、全体追究の場で扱った。また、クイズ形式を取り入れて、山間地の良さを想像したり、普段の実生活・実体験を見返したりしながら追究をさせた。生徒達は、天龍村の短所【自分の調査活動の内容】と天龍村の長所【全体追究で扱った資料の内容】の両方をふまえてより広い視野から最後の感想をまとめることができた。＜感想＞からも、学習の結果が悲観的な考えに留まらず前向きな姿勢につながっていった様子(自分のふるさとは前向きな姿勢をとりたいという生徒の願いを後押ししてきた様子)が伺え、教師側も明るい気持ちで学習を終えることができた。このことから、個別の調査活動後の全体追究の場で、自分が調査しまとめた内容以外の事実や見方・考え方に気づき、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち自分の考えを持つことができるような資料を扱う場を設ける必要性を感じた。研究仮説としてまとめると次のようになる。

(3) 研究仮説

このような生徒達が(生徒の姿)

個別の調査活動や、それに伴う作業学習(レポート作成)に対しては、苦手意識がなく、情報の取捨選択をしながらイラストや見出しなど工夫を加えてまとめることができる生徒が多い。しかし、全体追究を効果的に行わなければ、個々にまとめ終えた内容をもって学習が完結してしまい、他の事実や見方・考え方に気付かないまま学習を終えてしまう。

このような手立てで

- 全体追究の場で、生徒の心を揺さぶる資料を提示し、展開していく。

(例) 生徒の気持ちを引き付ける資料

人々の営みを強く感じさせるような資料

このような姿になるであろう

自分が調査しまとめた内容以外の事実や見方・考え方に気づき、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち、考えを持つことができる。

NIE に関わって

個別の調査活動の手段として、新聞記事集めを徹底的に行わせた。

(使用した新聞は、信濃毎日・朝日・中日・産経の4紙 9月～11月上旬までのもの)

「生徒の心を揺さぶる資料」として、1994年(平成6年)の新聞記事(信濃毎日)を使用した。

(1994年 平成6年は、現中1が生まれた年)

(4)單元展開

単元名 「都道府県を調べよう」 1 学年 地理

主目標

身近な地域(天龍村)における過疎問題に注目し、森林率の高い地形の特色を多面的多角的に考察することで身近な地域への関心と理解を深めた生徒が、学習問題「長野県を紹介しよう」を設定し、新聞記事を中心に紹介レポートを作る作業を通して、長野県の地域的特色を捉えることができるとともに、地域的特色を捉える方法を学ぶことができる。

単元の展開

学習問題/学習内容	指導/評価	時	資料
1 長野県ってどんな県？ < 学習問題 > 長野県を紹介しよう！！	○ 生徒自身が感じる長野県の印象を自由に書き出し発表する。 ○ 他県の中学生が長野県に対してどんな印象を持っているか予想し、発表する。 ○ 学習問題を設定する。	1	・学習カード ・他県から見た長野県のイメージ
	○ 長野県についての資料を集めるためにはどんな方法があるか考え、発表する。 ○ 長野県の大まかな地形や都市名、地域名とその位置を確認し、レポート作りの場面で生かす。	1	・学習カード ・地図帳
2 調査活動を行い、レポートを作ろう。	○ 各自、調査活動を行い、レポートを作る。 ○ 集めた資料をどのように扱えば、長野県に	6	・学習カード

	ついて知ってもらえるか考えながらまとめる。 ○ グラフやイラストなど視覚的に分かりやすい資料を用いるようにする。 ○ 各自、調査活動やレポート作りが円滑に進むよう支援する。(長野県の特徴がよく表れていると思われる新聞記事を探す。)		・新聞記事 ・その他、必要な資料
発表会を開こう。 <作成されたレポート 発表例>	○ 各自作ったレポートをもとに、長野県について発表する。	2	・学習カード ・レポート
	『長野県米がおいしい理由』 ・内陸性気候・高品質・水質の良さを理由としてあげ、県内各地の米の収穫記事を集めまとめた。		
	『長野県紅葉 1 番』 ・森林率の高さと紅葉の見所が多いことを結びつけ、県内各地の紅葉の記事を集めまとめた。		
	『Flower in Nagano』 ・冷涼な気候で栽培することで色が美しく長持ちする花ができることを調べ、県内各地の花卉栽培の記事を集めまとめた。		
	『長野県はくだものおいしいんです』 ・日照時間の長さと昼夜の気温差が大きいことで糖分が多く色合いの良い果物ができるとし、県内各地の果樹栽培の記事を集めまとめた。		
	○ ↑ 発表例の下線部のような内容を、長野県の特徴として共有化する。	2	
4 長野県の果樹栽培について考えよう。 <学習問題> 将来の長野県の果樹栽培はどうなっている？	○ 果樹栽培について扱ったレポートと教師が用意した過去の果樹栽培についての新聞記事をもとにしたレポートを取り上げ、学習問題を設定する。 - 学習問題に対しての予想を書き、発表する。		・学習カード ・レポート ・1994 (H 6) の新聞記事
5 宮沢さんに聞いてみよう。	○ 松川町で果樹栽培をしている宮沢さんのお話を聞く。 - 長野県の果樹栽培の課題や問題点 課題や問題点への対策(生産者の努力)	本時	
	【宮沢 喜好 さん】 松川町大島在住 ・長野県環境にやさしい農業推進会議認証農家 ・日本有機農業生産団体中央会認証農家 ・ライラック農園 園主 ・まし野ワイナリー 経営		
	○ 再度、学習問題に対しての予想を書き、発表する。		
6 自分の調査を振り返ろう。	○ 各自調査を行った内容について、それが抱える課題や問題点、それに対しての人々の努力や思いについて考えながら将来の様子を予想する。	1	・レポート

(5) 本時の活動

主眼

調査活動の発表を終えた生徒が、将来の長野県の果樹栽培の様子について、過去・現在の新聞記事をもとにしたレポートを根拠に予想するとともに、農家の方の思いに触れることを通して、調査活動や発表だけでは気付かなかった課題や問題点、それに対しての農家の努力や思いを含む長野県果樹栽培の特色を理解することができる。

本時の展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	指導/評価	時間	資料
導入	1 前時の発表内容について想起すると共に、果樹栽培に適した地理的条件を確認する。	・山がちな地形(扇状地)が果物作りには良い。 ・昼と夜の気温差が大きいと果物が甘くなる。	・前時の発表で出された内容を確認する。	5	・学習カード ・レポート(果樹栽培)
展開	2 果樹栽培の将来を考える。 <学習問題> 将来の長野県の果樹栽培は、どうなっている？	・生まれた年だ！ ・そんな新聞どこにあったんだ？ ・13年前も同じような記事が載っていたんだ。 ・きっとこれからも長野県は果物作りが盛んだと思う。 ・もっとたくさん果物を作るようになるかもしれない。 ・将来のことなんて分からない。 ・スーパーでは外国の果物が多く売られているけど… ・農家の人に聞いてみれば？ ・若い人がいないなら、いずれ長野県の果樹栽培は廃れていくのかな。さみしいな。	・1994年の県内の果樹栽培に関する新聞記事をもとにしたレポートを掲示する。(最も注目して欲しい記事はプリントとして配布する。) ・過去の新聞記事から13年前も果樹栽培が盛んだったことに気付かせ学習問題を設定する。 ・予想を発表させ練り上げる。 ・現状維持の予想で落ち着きそうになった場合は「長野県の果樹栽培には困ったことや問題点がないのだろうか」という発問をする。 ・宮沢さんの紹介を簡単に行う。	15	・学習カード ・レポート(果樹栽培) ・1994年(H6)の新聞記事をもとにしたレポート ・配布資料
	3 宮沢さんのお話を聞く。				

<宮沢さんのお話として予定していた内容> ●問題点・課題 ・価格安 ・高齢化(担い手がいらない) ・輸入品の増加 ↓ 将来的に、県下の農家数・生産量は減少が予想される。どうすれば輸入品に勝てるか考えていかなければいけない。ライラック農園では、消費者に「安全性」をアピールしている。(例:農薬や化学肥料を使わない・食品ゴミを肥料として使う)食の安全性は時代とともに今後も重要視される点であり地元産果樹は輸入品に勝る。加えて、果樹の加工を積極的に行うということが大切。加工品に人気が出れば、果樹の生産が盛んになる。「まし野ワイナリー」を作り、地元のぶどうの生産が盛んになるよう努力している。作る人がいなければ輸入を増やせばよいという考えは間違っている。農業をすることに環境を守るという意義がある。そういう使命も感じて宮沢さんは果樹栽培を行っている。将来の果樹栽培は農家の努力や使命にかかっている。		・輸入品や他の土地で作られた果物より、地元でとれた果物や有機栽培の方が安心して食べられるな。 ・新聞には書いてなかったな、こんなこと。	・農家の方が感じている課題や問題点とその対策や努力、思いをお話して頂く。 ・長野県の果樹栽培は地形や気候が適していただけてはななく農家の人の努力によって保たれていることに気付かせる。	20	・写真資料(ライラック農園/まし野ワイナリー)
まとめ	4 宮沢さんのお話を聞いて、再度果樹栽培の将来を考える。	・もしかしたら、長野県の果物作りは盛んではなくなっていくかもしれない。地形や気候が合っていてもどうしようもない。新聞でも扱わないようになるかもしれない。 ・農家の人が頑張っているし、昔から新聞にも取り上げられているのだから課題や問題点があってもそう簡単になくなることはない。	・果樹栽培の将来について考えさせ、学習カードに記入させる。 ・果樹栽培以外の内容のレポートにも人々の努力や思いが関わっていることを予感させ授業を終える。	10	・学習カード

実証の観点

過去の新聞記事や農家の方のお話は、生徒の心を揺さぶる資料となり、全体追究において、自分が調査しまとめた内容以外の事実や、見方・考え方に気付き、学習を進めてきた事象に対して広い視野に立ち、自分の考えを持つことができるのに有効であったか。

授業記録

T: 前回までの授業で、ひとりひとりレポート発表をしてもらいました。今日は、S9さんのレポートの内容についてもう少し勉強したいと思います。長野県は、幸せなことに果物がおいしいということですが、その理由をもう一度確認しておこう。一つめの理由は何か？

S13: 日照時間が長い。日が当たる時間が長い。

T: 日が当たる時間が長いと栄養がたまるといいますね。あともう一つ。

S2: 夏の昼夜の気温差が大きい。

T: 昼と夜の気温差が大きいと果物が甘くなるということだね。そういう長野県の気候が果物栽培に適していると勉強したよね。いろいろな果物があるのだけれど、長野県で作られている果物の生産量を確認し

てなかったんで、先にそれを確認しましょう。(プリント配布)日本で作られている果物を100とすると、そのうちどこの都道府県でどれだけ作っているのかという資料です。長野県の部分に色を塗ってみよう。

S2:さすが長野県。

S6:あまり1位じゃないじゃん。

T:それぞれの果物について長野県は何位の生産をあげていますか。りんごは？

S4:2位。

T:ぶどう？

S7:2位。

T:もも？

S10:3位。

T:日本なし？

S6:6位。

T:長野県の果物生産は高いということが分かるかなと思います。実は、私も皆さんのレポートをまねて、1つレポートを作ってみました。問題です。このレポートはS9さんのレポートと比べると一つだけ明らかに違う点があります。分かりますか？

S:カラーじゃない？

S:新聞じゃない？

S1:古い新聞？

T:それはどこを見てそう思った？

S1:白黒だから。

T:レポートが1枚しかなくて見にくいと思うので、この果物の大きさを自動で分ける機械の記事と高森町の市田柿の記事をプリントにしてみましたので、配ります。

S2:すっげー古い。俺らが生まれた年だ。

T:1994年の記事です。今から13年前の新聞記事です。13年前の新聞記事にもこれだけね、果物の記事が載っているんだよ。せっくなので、同じように13年前の果物の生産量も確認しておきましょう。(プリント配布)この資料は皆さんが生まれた年の果物の生産を表したものです。同じように長野県を見つけて作業してみよう。生産順位を確認します。りんご？

S9:2位。

T:ぶどう？

S11:2位。

T:もも？

S2:3位。

T:日本なし？

S3:5位。

T:いいですね。これ(教師のレポート)が、1994年の過去の新聞記事で、皆さんの手元には1994年の生産量の資料ね。これ(S9生のレポート)が、2007年の現在の新聞記事と、皆さんの手元に2006年の生産量の資料ですね。これをもとに考えたいのは、過去、現在ときて・・・

S2:未来？

T:そう。長野県の果物栽培の未来の様子を考えたいわけです。学習問題を書きます。学習問題を書いて、書けた人から自分の考えを書いてみて下さい。

考えを聞いてきたいと思います。みんなの考えのところにメモをして下さい。

S2:生産量はどんどん減っていく。アメリカとかだとバイオ燃料の作物が儲かると言われていて日本にもその影響がくる。

T:何を作るようになるの？

S2:とうもろこし。

S4:生産量は減っていく。高齢化とかで作る人が少なくなっていくから。

T:どうしてそう思った？

S4:村の畑をやる人がいなくなっていて、それは高齢化が原因だから。

S6:生産量はあまり変わらないか少し減る。1994年から13年間の変化を見てもあまり変

わらないので、少し減るくらいだと思う。

S9：生産量は減る。農業をやる人が少なくなるから。

T：なぜ？

S9：儲からないから。

T：なんで？

S9：分からない。そんな気がする。

T：質問を変えますね。生産量は増えるという人？

S6：それはないよ～

S3：増えるかもしれない。温暖化が進むので、温かいところで育つ果物を栽培するようになる。

T：例えば何？

S3：パイナップル。

T：今まで栽培していた果物は減るってこと？パイナップルは増えるけれどってこと？他の果物を作るようになるということですね。今、生産量は減ると言ってくれた人がほとんどなんだけれど、農業は儲からないとか、他の果物を作るようになるとか、高齢化しているんじゃないかとか予想してしてくれたんだけど、本当にそうなのかな？どうすればそれが分かりますか？

S2：農家に聞こう。

T：誰か農家の人紹介してくれませんか？

T2：今日は、サプライズで、私の先輩が来てくれています。

T：O先生の先輩で、松川町の宮澤喜好さんという方にお越し頂いています。宮澤さん、前の方へお願いします。松川町の場所を地図で確認しておきましょう。宮澤さんには、実際に果物を作られている立場から、困っていることや問題点とそれに対してどんな努力をされているかというお話をさせて頂くために来て頂きました。お願いします。

宮澤さん：こんにちは。O先生とは音楽仲間です。天龍村は素晴らしい所ですね。紅葉がきれいです。すごい。良い環境で勉強されていますね。一番下の子どもは6年生で、4人子どもがいます。なので、みんなくらいの年の子といつも話しているので今日はどんなふうに聞いてもらえるか楽しみにして来ました。私の感じていることを聞いてもらえればと思います。これは私がやっている仕事の一つで、ワイン、りんごジュースです。よく売れます。私は農家の果樹園をやって、出荷のための荷造りをしたり、たい肥を作ったり、このたい肥はりんごジュースの絞りかすで作ります。ワイナリーもあります。こういう果樹園を経営しています。そこにやぎの写真もありますが、やぎも飼っています。このやぎは土手の草を食べるのだけれど、やぎのお乳を飲むの、家族で。けれど、農薬の草を食べるとお乳にも農薬がたまってくるのだけれど、安全な生産をしているというか、有機栽培をしていますっていう認定を受けて果物を作っているのだけれど、その草を食べるやぎのお乳を飲んで喜んでるの。安全だなんて。そういうりんご作りをしています。今ね、ここに書いてあるようにすごく問題点がいっぱいあって、13年前って、機械とかたくさんできてたくさん果物を栽培しようって、作れば売れるだろうっていう時代。今年は、そんな記事じゃなくて、変わったものができたかという記事。13年前の果樹生産ってたくさん作って輸入に勝とうとした時代。けれど、今は消費者も高齢化。人口も減っている。みんなりんごを食べれば良いけれど、食べる人がいない。子どももあまり食べない。13年前と違ってきている。これから10年後のことをみんな、心配してくれているけれど、ふじっていうりんごがあります。30年くらい前に広まって栽培が増えたけれど、1kg300円で売れた。今は全体的に物価が下がって、安くなった。お先真っ暗。100万トンの生産が75万トンになってしまった。歴史的に見ると、下伊那は桑を作っていたのね。生糸を作って輸出していたの。でも少なくなってしまった。そういうふうに農業っていうのはずっと続かないもの。桑の後にりんごをつくるようになった。桑を作るところは水がなかった。りんごやなしは水がなくてもできるからね。さっきとうもろこしってあったけど、そうなるかもね。どんどん変わっていく。でも、私は希望をもって生産量は微増ってこともあるかなって思う。長野県は気温が低いんです。だから温暖化になっても標高が高いことが有利に働く。長野県の栽培の方法も効率が良い。長野県の農業者が努力することによって増える。一つは加工事業。良くない果物は加工してしまえば良い。もっと大事なことは、地球温暖化の中で農業が貢献する大きさ。農業が地球に、環境

に果たす役割は大きい。何に目標を置くか。りんごなら、おいしい、赤い、大きいどれか。それと同じで食品のリサイクル、お年寄りに仕事を与える、地球のためになるやり方に目標をおく。二酸化炭素の削減に協力すること。高齢化社会に協力すること。そういうのがこれからの農業の大事な点。消費者はそれを評価しなければいけないよね。こっちは普通のりんご。こっちは除草剤や化学肥料を使わないりんご。そうしたら、除草剤や化学肥料を使わないりんごを買ってほしい。それが二酸化炭素をどれだけ減らすことができるか。露地のぶどうとハウスのぶどう。露地のぶどうを買ってほしい。農家の努力だけではだめ。新聞とか報道の力も必要。これからの報道は消費者にどの果物がみんなのためになるのかということを宣伝してほしい。スーパーでもどうして値段が高いのか(有機栽培をしているからとか)という理由もはっきり書いてもらいたい。少し高い値段でも買ってくれるっていうのがこれからの消費者。そういうふうにならなければ。そうなれば農家ももう少しやれるかなって思うことにつながる。10年後の果物作り、生産量は微増。私はそう思っています。

T: ありがとうございます。今、宮澤さんは生産量が少し増えると予想して下さったのですが、みなさんはお話を聞いて、やっぱり減ると思ったか、変わらないと思ったか、増えると思ったか、最後に自分の考えを書いてみて下さい。

学習カードから(生徒の考えの変化)

やっぱり宮澤さんの話を聞いて少しずつ増えていくと思う。標高が高いと温暖化でも有利になるって言っていたから。

もしかしら増えていくかもしれない。新聞などからもどんどん知ってもらって(果樹栽培を)やりたい人が増えて、生産も増えると思います。

生産量が増えそう。宮澤さんの言う通りかもしれない。農家の人も結構努力をしているなと思った。新聞など使用して宣伝してもらってりんごなどを買ってもらうようにしている。

増えるかなと思いました。分からないけれど、農薬とかを使っていないやつの方を自分も食べたいと思ったからです。

やっぱり消費者の僕達の考えがとても大切なんだと思いました。とうもろこしも作るかもしれないけれど、長野県のりんごやぶどうも作り続けてほしいです。

このままだと高齢化が進んで若い人達が農業をしなかったら、(生産量は)減りそう。

(6) 研究のまとめと課題

・社会科の授業で新聞をどのように活用するか。

これまでの授業では、ほとんど新聞を活用した経験がなかったので、「NIEの研究指定を受けたがために新聞を無理に活用している」という不自然な結果につながってしまった。自分自身が、新聞で情報を得るよりもインターネットで情報を得る方が良い(効率的・手軽等)という考えを持っていることもあり、新聞で情報を得る利点を生徒に伝えることができなかった。(実際、紙媒体である新聞記事を使った調査学習や記事を集めるのがとても大変だったという意見が多数出された。)授業の中で、自然な形で無理なく新聞を有効に活用する方法を模索していきたい。

・“生徒の心を揺さぶる資料”のあり方。

今回の授業では、生徒の心を揺さぶる資料として、1994年の新聞記事 果樹農家の方の生のお話 の2つを扱った。 に関しては、十分に生徒の意識を引きつける効果はあったと思うが、学習問題を予想する上で生徒が参考にする姿はあまり見られなかった。(『こんな古い新聞、残っていたんだ。』という驚きで終わってしまった。) に関しては、●打ち合わせが不十分で話の焦点が定まらなかった。●中学生が集中して話を聞くには時間が長すぎた。●話が概念のみで農家のリアルな苦労や工夫については伝わらなかった。●生徒の中に学習問題がうまく据わっていなかったため、話を聞くことに必要性が感じられなかった。など結果として多くの問題があげられ、生徒の心を揺さぶる資料にはなりえなかった。外部講師を招きお話を伺う場合、それがきちんと生徒の心を揺さぶる資料になるように事前打ち合わせの方法を考えたい。